

知床百平方メートル運動地高等植物目録

石川幸男¹・市川 聡²・吉中厚裕³

1. 079-01 美瑛市光珠内町 専修大学北海道短期大学造園林学科
2. 891-43 鹿児島県熊毛郡屋久町安房2384-10 霧島屋久国立公園屋久島管理官事務所
3. 085-04 阿寒郡阿寒町阿寒湖畔 阿寒国立公園阿寒湖畔管理官事務所

1. はじめに

知床半島の植物相については、館脇(1954)、池田・斉藤(1962)、斉藤(1985)、鮫島・佐藤(1981)などによってこれまで調査が行われてきた。特に鮫島・佐藤(1981)はそれまでの調査研究を集大成したもので、総計103科366属744種55変種20品種が報告されている。しかし知床百平方メートル運動の対象となっている幌別、岩尾別の両台地に限定した調査はというと、幌別台地での市川・吉中(1987)の調査を見るくらいで、まだ不十分と思われる。著者らは1986年以来、知床半島幌別台地、岩尾別台地において植生についてのいくつかの調査を行ってきた。そこで今回幌別、岩尾別両台地のみに焦点を合わせ、百平方メートル運動での様々な活動に利用することを目的として、そこに生育する維管束植物の目録を作成することとした。なおここでいう幌別、岩尾別台地とは、知床百平方メートル運動地だけではなく、運動地と海食崖とに挟まれる国有林も含んでいる。海食崖は傾斜が急で調査が不可能なので、除外した。

通常の植物目録では植物名が羅列してあるだけだが、ここでは主要な植物群について、種名の同定(生物の名前を調べる)が容易にできるように、各分類群ごとに同定のキーとなる形質を簡単にまとめ、同定をするためには植物のどの部分を標本として持って来ればよいのかを示した。また本文中に出て来る植物分類上の用語は、初めて出て来る場合ゴシックで表した。ただし植物の名前を調べるにはある程度直感に頼る部分があることも否定できない。したがってシダ植物、裸子植物、被子植物といった上位の分類レベルについては特に示していない。また出現種数の少ない科については言及していない。目録中の種の配列は大井・北川(1983)と大井・中池(1978)にしたがった。帰化植物でこれら2つの植物誌に記載されてい

ない種については、長田(1972、1976)を参考にした。この他に推薦できる植物誌、植物図鑑は文末に掲げた。これらは、本論をまとめるに際して参考にした資料でもある。

なお、本論をまとめるに際して、現地調査の便宜を図っていただいた自然トピアしれとこ管理財団大瀬 昇、山中正実両氏、ならびに岩尾別温泉木下小屋法量 武氏に謝意を表します。また、専修大学北海道短期大学造園林学科、堀 嘉行、城田 寛、松田有司、奥山泰明、関口孝幸、八木美憲、川西拓未、下平真純、丹羽慎治、綿谷隆宣の諸氏には現地調査と資料整理に協力していただいた。ここに記して感謝する次第です。

2. 各植物群の同定に重要な形質

2. 1 シダ植物門

シダ植物は形態学的にみると、写真-1-1に示した部分が1枚の葉と、それを支える柄(葉柄という)である。また葉の中央の軸を中軸と呼ぶ。一枚の葉のように見える部分は写真に示したように通常羽片と呼ばれる。この羽片がさらに切れ込むこともあり、順に小羽片、裂片と呼ばれる。またこのほかにシダを同定するためには、葉柄や中軸にくっついていて、やや汚れた感じのする鱗片の色、形、光沢などの形質や、繁殖のための胞子の入れ物の役割を果たしており、葉の裏側についている胞子のうの形や位置(写真-1-2)が重要である。

2. 2 種子植物門

2. 2. 1 裸子植物亜門

本地域で生育する裸子植物はすべて針葉樹で種数が少なく、トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、カラマツ、およびイチイのみである。ハイマツは知床連山の森林限界以上には生育しているが、本地域内には生育していない。トドマツ(モミ属、*Abies*)とエゾマツ、アカエゾマツ(トウヒ属、

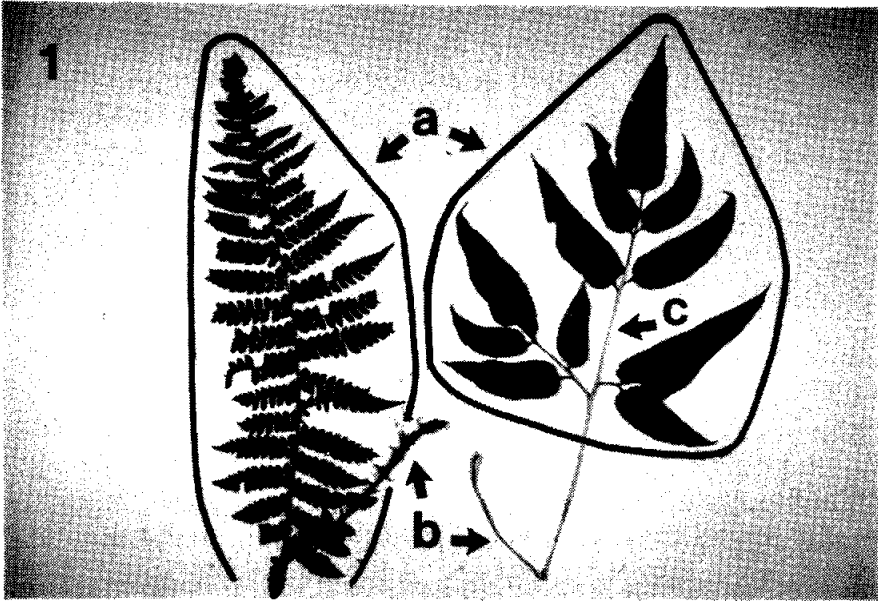


写真-1 シダ植物の形態。(1) a ; 葉身, b ; 葉柄, c ; 中軸. 左はホソイノデ、右はイワガゼンマイ。(2) 胞子のうの形態と位置 (ホソイノデ)。

Picea) の区別が慣れないうちは難しいが、よく見るとトドマツは葉の先が二つに分かれており、トウヒ属の2種は分かれていない。

なお、日本全土でみれば裸子植物=針葉樹ではなく、裸子植物の中には、イチョウのような幅の広い葉の植物もあれば、シダ植物からの進化の過程を如実に示しているような種(たとえばソテツ)も含まれることは記憶しておく必要がある。

2. 2. 2 被子植物亜門

a : 単子葉植物

種子の芽生えの時、子葉が一枚しか出ない単子葉植物を簡単に見分けるには、葉脈が多くは平行脈で、互いに交差することが無いことを利用すればよい。本地域でよく見られる単子葉植物の中では、イネ科とカヤツリグサ科の区別がなかなか困難なようである。イネ科とカヤツリグサ科の中で

も本地域でしばしばみられるスゲ属 (*Carex*) の区別点は、イネ科では大部分の種で茎の断面が円形で中空、葉の断面は中央に太い脈が一本ある形態なのに対して、スゲ属では茎の断面は三角形で中がつまっております (中実)、葉の断面は数回屈曲することである。ただしカヤツリグサ科の中でも、他のいくつかの属はスゲ属とは異なった形態をしている。

イネ科

イネ科は、単子葉類の中の風媒花 (花粉が風で運ばれる種類) では最も進化していると考えられている。またその進化は地史的タイムスケールで見ると、われわれ人間の生活と密接に関連してかなり最近起こったものも多いとされている。したがってその特徴はおもに、花という比較的限られた部分に集約されている。つまり、イネ科の同定

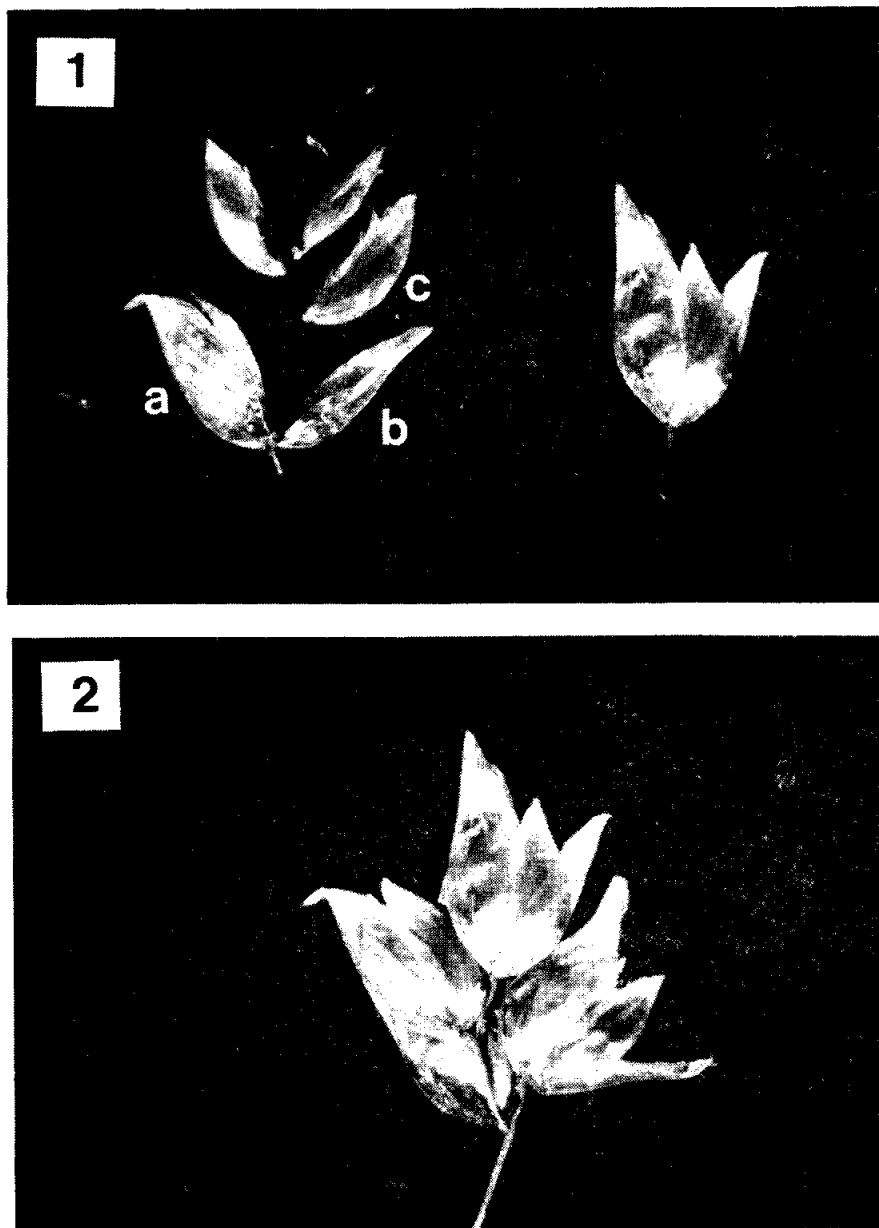


写真-2 コメガヤの形態。(1)左 a; 第一苞穎、b; 第二苞穎、c; 花穎。花穎の中に、雄しべや雌しべ、内花穎などがあるがこの図では見えない。右 小穂全形。(2)花の全形。

は一見すると厄介なようだが、花のついた標本さえあればそれほど難しくはない。ところが、イネ科の花は一般的な花のイメージとはかけ離れた特殊な形態をしていて、用語も耳なれないものが多い。その形態を写真-2に示した。この図から明らかかなように、イネ科植物の花には花弁らしきものはない。さらにイネ科植物の穂は「花(小花という)がいくつか集合した小穂が、さらにいくつか集合したもの」ということがわかる。

ところで、写真に示したように、イネ科植物の

小花を特徴付ける穎(えい)にはさまざまな呼び方があり、統一されていない。ここでは大井・北川(1983)にしたがったが、そのほかの呼び方と併せて表-1に示した。これらの苞穎、花穎、内花穎の大きさ、形、色、でっぱりなどがポイントになる。またこのほかに、葉鞘と葉の接する部分の葉舌の形、地下茎の有無などが重要である。なお長田(1989)には、イネ科植物についての解説がコンパクトにまとめられている。

表-1 小穂の呼び方対照表(長田、1989を参考に改編する)

大井・北川(1983)	長田(1989)	北村ほか(1964)	牧野(1961)	文部省(1956)
第一苞穎	第一苞穎	第一苞穎	第一苞穎	第一穎
第二苞穎	第二苞穎	第二苞穎	第二苞穎	第二穎
花穎 ⁺	護穎	護穎	護穎	花穎
内花穎	内穎	内穎	内穎	内花穎

⁺一部護穎との表現もある。

カヤツリグサ科

カヤツリグサ科のうちで、本地域でよく見られる属はなんといってもスゲ属である。このスゲ属植物はイネ科に匹敵するほど、とっつきづらい。

しかしこれもイネ科と同様、標本さえそろってれば同定はさして困難ではない。写真-3、図-1を参考にしながらスゲ属で重要な形質をあげると、以下のように、

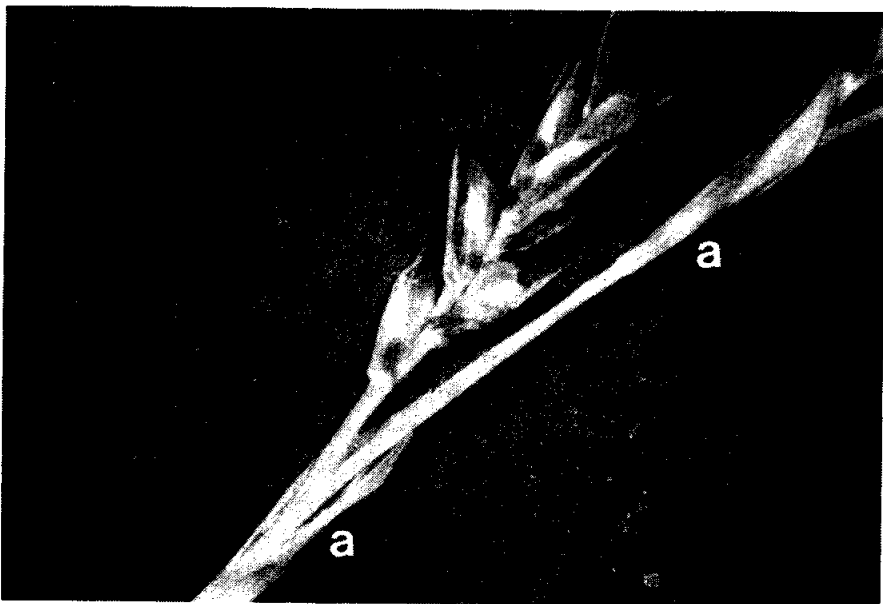


写真-3 スゲ属の形態。ヒカゲスゲの雌の小穂の全形。小穂の最下の苞(a)が筒状(鞘)になっていることに注意。

- ・小穂の数
 - ・一小穂の中に雄花と雌花が共にあるかどうか
 - ・小穂の基部の苞が茎をつつむ(鞘)かどうか
 - ・雌しべの先端が二分するか三分するか
 - ・果実の形、上部にでっぱり(付属物という)があるかどうか
 - ・果実を包む果胞の色、形、毛の有無など
 - ・雌、雄鱗片の形や色
 - ・株立ちするかどうか
 - ・茎の基部の枯れたような部分(鞘)の色
- などである。したがって、イネ科と同様に花や果実がないと同定は難しい。とくに、雌しべの先端の分裂の仕方などは果実の時期でも観察できるものが多いので、果実が最も重要である。

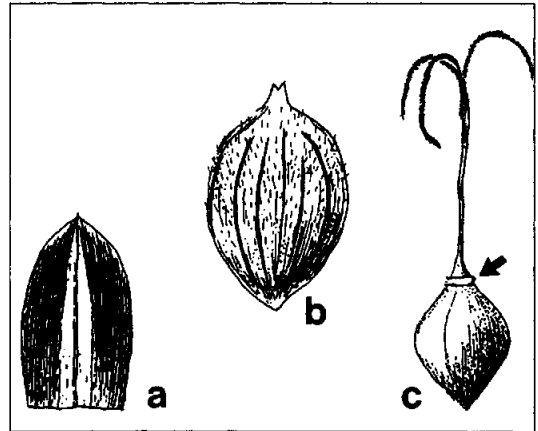


図-1 スゲ属の形態. カミカワスゲ. a ; 雌鱗片、b ; 果実、c ; 果実(矢印は付属物を示す)[秋山(1955)より描く].

ユリ科

単子葉類の中心となる科で、これから風媒花ではイネ科やカヤツリグサ科が、虫媒花ではラン科やショウガ科の分化が起こったと考えられている。このため、たとえばイネ科のように花の特徴で属レベルの帰属がほぼ決定してしまう科に対して、ユリ科の中ではさまざまな特徴をもった属が混在し、同定のキーは多岐に渡っている。その中には花の構造、特に花被片(花びらと萼を総称したも

の)の形や大きさ、雄しべの形、子房の位置といった部分が重要である。とくに花の構造部分が3の倍数からなる放射対称であること(3数性、写真-4)はユリ科全体をつうじた特徴である。また地下茎が鱗茎や球茎になるかならないか、葉が茎を抱くか、葉柄はあるかないか、といったポイントも同定の決め手になることもある。



写真-4 オオバナノエンレイソウ. 花卉、萼片、葉がそれぞれ3枚づつ、雄しべが6本あることに注意.

ラン科

ラン科の植物は、花粉媒介に昆虫を利用する典型的な虫媒花で、この面で高度に特殊化し、単子葉類では最も進化していると考えられている。したがって花の形態がポイントになる。ラン科植物の花被は図-2に示したようにそれぞれ3枚の外花被片(萼片)と内花被片(花弁)からなる。このうち内花被片はさらに左右1対と中央のもので形が異なり、中央は唇弁と呼ばれる。また唇弁には時に後方に突き出した距が発達する。ラン科の植物は観賞用に品種改良が著しいが、属の間でも雑種ができることが多く、形態的な差が本質的な

種の違いといえるか問題もはらんでいるという。

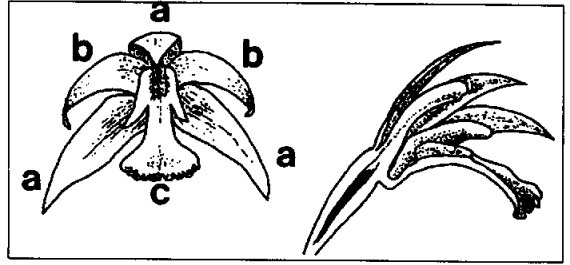


図-2 コケイランの花. 左 花の正面(a; 外花被片、b; 内花被片、c; 唇弁). 右 花の縦断面〔北村ら(1964)より描く〕.

b: 双子葉植物

離弁花類

ヤナギ科以下、クルミ、カバノキ、ブナなどの

各科はいずれも花、特に雄花がいわゆる花の形態からはかけはなれている。すなわち写真-5に示したようなしっぽ状の花で、尾状花序と呼ばれる。

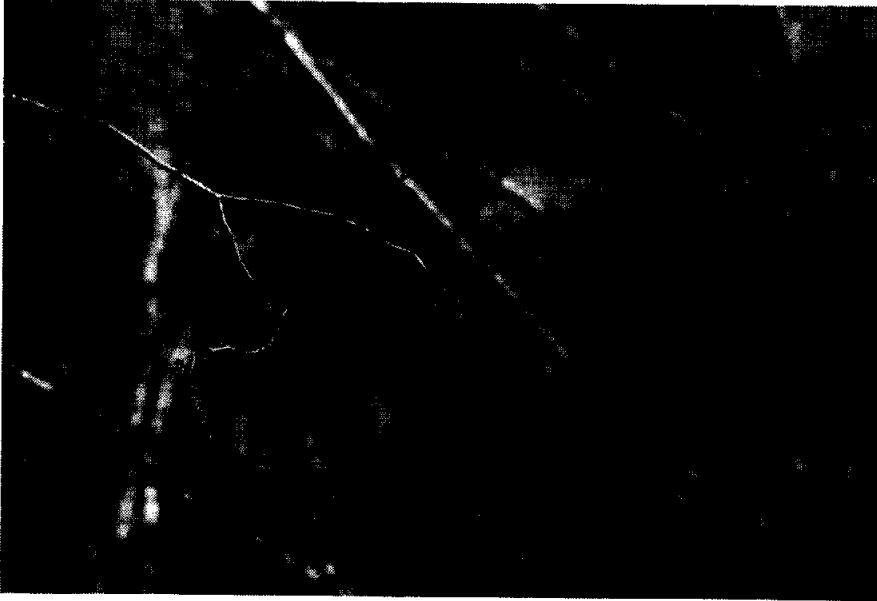


写真-5 尾状花序(ケヤマハンノキの雄花)。

ヤナギ科

ヤナギ科はヤナギ属(*Salix*)、オオバヤナギ属(*Toisusu*)、ケショウヤナギ属(*Chosenia*)、およびハコヤナギ属(*Populus*)からなっている。このうち種類数が多いのはヤナギ属であるが、この属は葉の形で同定しにくいことでよく知られている。同定のポイントは雄しべと雌しべの形で、ヤナギ科の植物はいずれも雄と雌の個体が別々に分れているため(雌雄異株)、両方の花が必要である。図-3にヤナギ属の雄しべ、雌しべを示した。

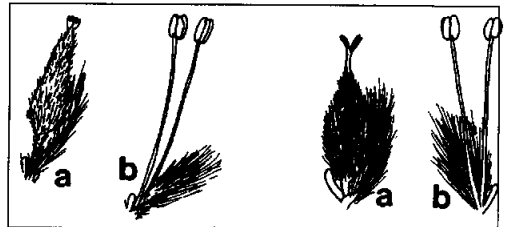


図-3 エゾノバッコヤナギ(左)とオノエヤナギ(右)の雌花と雄花(a; 雌花、b; 雄花)〔北村・村田(1971a)より描く〕.

イラクサ科

イラクサ科の植物では、エゾイラクサに代表される刺毛があって触ると痛痒い仲間と、そうでない仲間に大別される。そのほか、花、特に雌花の

タデ科

北海道内に分布するタデ科の植物は、おもにギシギシ属 (*Rumex*) とタデ属 (*Polygonum*) である。このうちギシギシ属では、花が咲いたあとで花被が大きくなり果実をとりまくようになる。

花被の様子、葉の形や出方などで属レベルに区分される。属内の種レベルでは、同様に花被の様子や葉の形が重要で、また部分的に木質化するかどうか決め手となることもある。

この花被片の形が重要で、写真-6-1に一例を示した。またタデ属では、葉の形とともに茎の刺の有無、葉鞘や托葉の形などがポイントである (写真-6-2)。

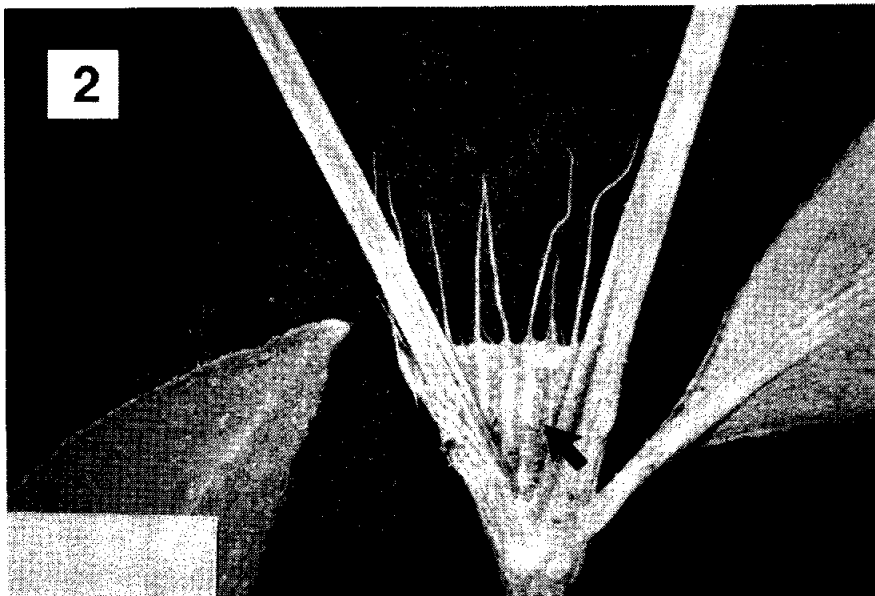


写真-6 (1)エゾノギシギシの花被片 (2)イヌタデの葉鞘.

ナデシコ科

ナデシコ科はすべて草本で、第一に萼がくっついているか、それぞれ離れているかで、大きく分類される。例えばナデシコ属 (*Dianthus*) のエゾカワラナデシコでは萼がくっついているが、こ

れに対してコハコベ (ハコベ属、*Stellaria*) では離れている (写真-7)。またこの他に、托葉の有無、花卉の切れ込み具合、種子の表面の形態などが重要である。



写真-7 コハコベの花。萼片が基部で離れていることに注意。

キンポウゲ科

キンポウゲ科はモクレン科とともに最も原始的な被子植物と考えられている。多くは虫媒花で美しい花をもつものが多い。キンポウゲ科では、

- ・萼片の形
- ・葉の生え方 (対生、互生、輪生など 図-4)
- ・果実の形 (瘦果か袋果)
- ・花の下の総苞葉の有無
- ・花卉の有無、距の有無

などである。したがってこの科でも、花と果実が必要である。さらに属内での検索には根葉の形態、

茎が地面を這うかどうかなども重要になる属がある。

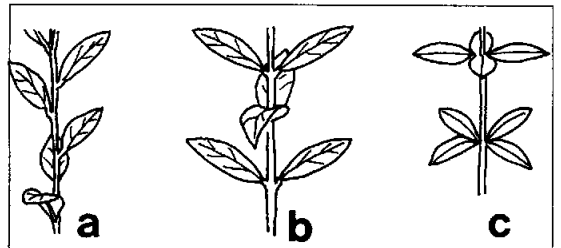


図-4 葉の出方。a;互生、b;対生、c;輪生。

アブラナ科

アブラナ科では、ナズナに見られるような平べったい、あるいは長細い、直立または開出する果実 (写真-8) が特徴である。アブラナ科では植物体に生える毛が分枝するかどうか、果実 (角果という) の形や開くかどうか、種子の数や果実内での配列、花の色などで属レベルが決定される。このうち、種数が多いタネツケバナ属 (*Cardamine*) では根茎が肥大するかどうか、花の大き

さ、茎葉の数、根葉の有無やその小葉の数などで種が同定できる。またヤマハタザオ属 (*Arabis*) では茎葉の葉柄の有無、抱茎するかしないか、果実の長さやくびれの様子、種子の形で同定できる。

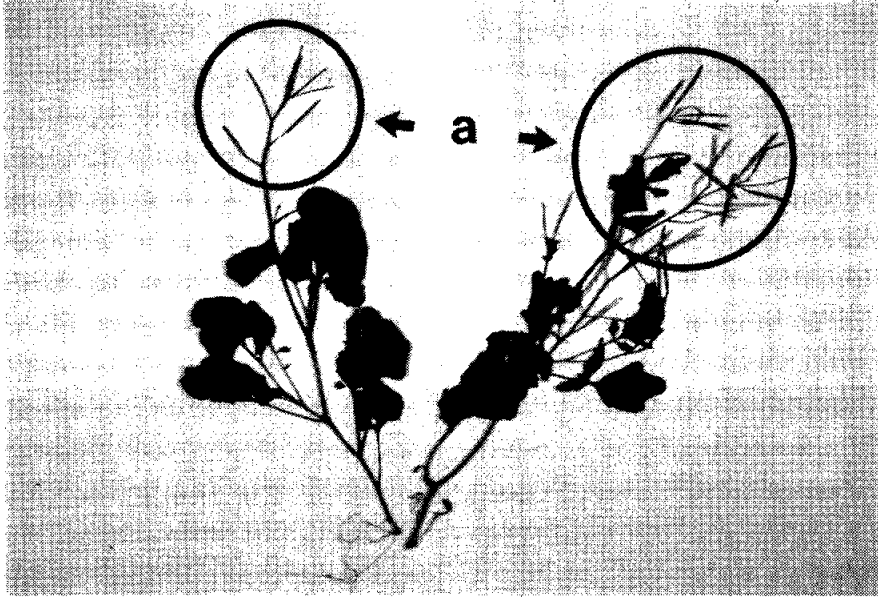


写真-8 ヤマトネツケバナの果実 (a).

ユキノシタ科

本地域で見られるユキノシタ科の植物のうちイワガラミ (*Shizophragma*) とアジサイ (*Hydrangea*)、スグリ (*Ribes*) 3 属は木本で、他の 4 属は草本である。草本の 4 属のうちネコノメソウ (*Chrysosplenium*) とズダヤクシユ (*Tiarella*) の 2 属は子房の中が一つの部屋しかないのに対して、チダケサシ (*Astilbe*)、ユキノシタ (*Saxifraga*) 2 属では二つの部屋に分かれるといった点で大きく区分することができる。これらのうち、イワガラミとアジサイ属に含まれる 4 種はいずれも花序

に特徴がある。花序の周辺にある“花”はよく見ると雄しべや雌しべをもたず、発達した萼が花卉のように見える中性花 (装飾花、写真-9) である。本当の花はこの中性花より内側にあり、中性花は花粉を媒介する昆虫を引き付ける役割があると言われている。またこのうちイワガラミとツルアジサイはどちらもツル性で区別しづらいが、イワガラミでは中性花の萼片が一枚であるのに対して、ツルアジサイでは 3~4 枚である。したがって写真-9 はツルアジサイということが分かる。



写真-9 ツルアジサイの花序。周辺に中性花 (矢印) があり、その内側に細かく見えるのが両性花。

バラ科

バラ科はおよそ100属3000種を含む大きな科で、世界中に分布している。一般に葉は互生で托葉があり、通常ひとつの花の中に雌しべも雄しべもあり（両性花ないし完全花、写真-10-1）、放射形で萼や花弁は5枚のことが多い。また雄しべが多数あることが多く、花全体は小学校の理科の教科書などで出て来る典型的な花の形をしている。百平方メートル地区で見られるバラ科は11属あるが、ここではよく見かけるキイチゴ属(*Rubus*)とサ

クラ属(*Prunus*)について述べる。キイチゴ属は雑種を作り分類困難な属としてよく知られている。本地域でいままで確認された種はいずれも低木状で、腺毛（写真-10-2）があるかないか、刺が偏平か細くて針状かで同定できる。またサクラ属では花序か少数の花からできているか、あるいはたくさんの花がある房状（総状花序）かどうかが重要である。さらに葉の基部や葉柄にある蜜腺の位置も参考になる。

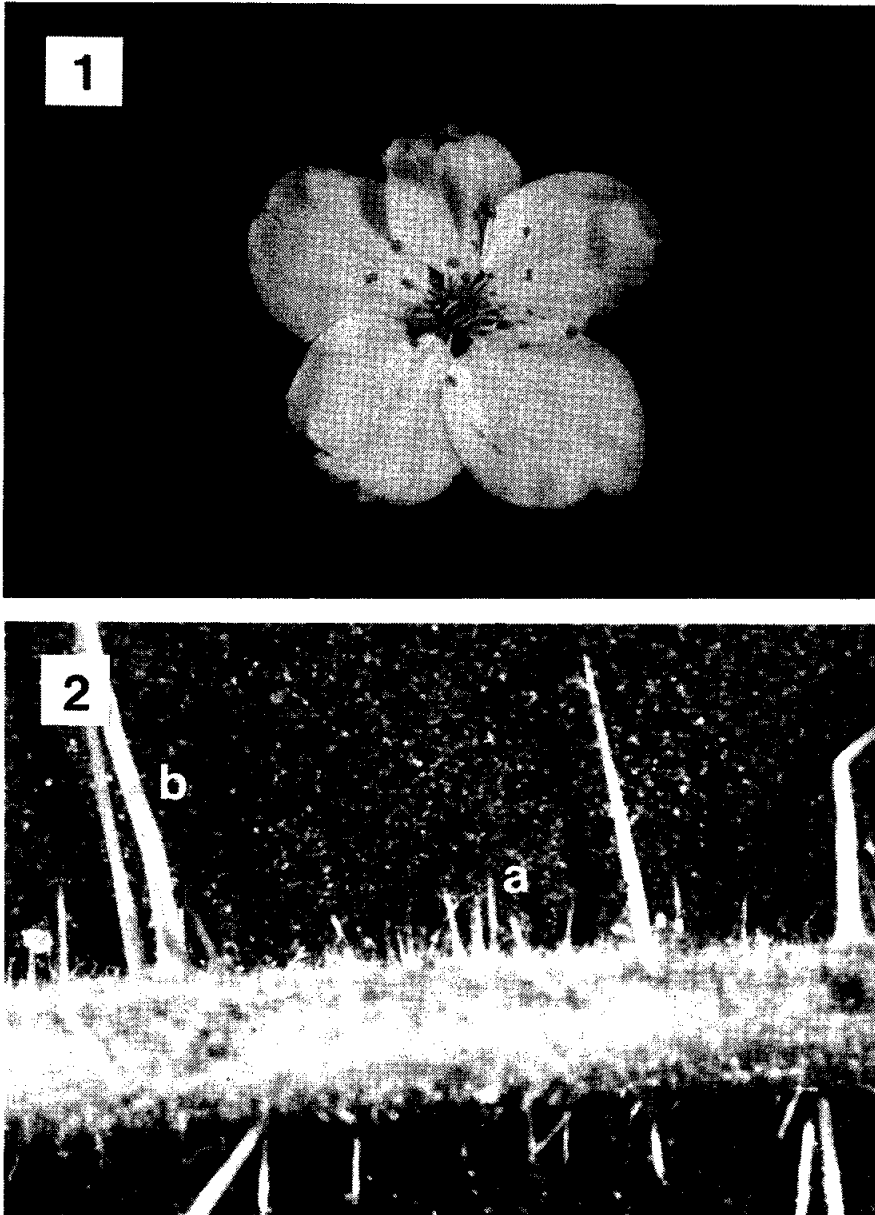


写真-10 (1)エゾヤマザクラの花。(2)ウラジロエゾイチゴ。a；腺毛、b；刺。

マメ科

マメ科は科レベルでは熱帯に分布の中心がある。われわれが日常の食生活で世話になっている大豆、小豆、インゲンなどすべてマメ科で、草本のツル植物のようなイメージがあるが、北米原産で日本

中に帰化しているニセアカシアのような高木や、ハギのような低木も含む。葉が互生して托葉があり、多くは複葉になること、花は左右対称で蝶形になることが多い。

ニシキギ科

北海道産のニシキギ科の植物で同定が難しいのは、ニシキギ属(*Euonymus*)である。ニシキギ

属では葉はすべて対生だが、花が4数性か5数性か、果実が球形か稜があるかなどで同定できる。

カエデ科

カエデ科の植物は、手の平状の葉が対生する樹木ということができ、わが国にはカエデ属(*Acer*)しか分布していない。北海道に分布するカエデ科

の植物はそれほど多くないが、最初の内はどれもこれも同じに見えて厄介である。花序が上を向くか垂れ下がるかで大きく区分され、さらに葉の切れ込みの数の違いで同定される。

スマレ科

スマレ科は、ユリ科やバラ科といった大きな科から比べるとまとまりがよく、スマレ科であることの見当はつきやすい。わが国のスマレ科植物はスマレ属(*Viola*)一属で、すべて多年生の草木で

ある。種の同定のキーポイントは、地上茎の有無、地上茎から花が出るかどうか(写真-11-1)、葉の形、および托葉の形(写真-11-2)などである。

セリ科

セリ科の植物は葉が幾重にも切れ込むこと、花序が房状(写真-12)になることなどでセリ科であることは比較的容易にわかるものが多く、ミツバやウマノミツバは葉の形だけで容易にわかる。しかし、シシウド属(*Angelica*)などでは種の同定にはかなりてこずらされる。というのもこれらの種の同定には、果実の表面や断面の形態が重要で、隆状(表面のどっぴり)や、断面中の油管

(図-5)の分布状態と本数などで同定されるからである。したがって果実がないと近いところまで行っても、結局種名が確定できないことが多い。なお、ニンジン、パセリ、セロリなどわれわれに馴染み深い作物もセリ科に含まれる。また本地域に分布するノラニンジン(地下部が肥大しないので食用にはならないが、れっきとしたニンジンの野生種である。

合弁花類

ツツジ科

ツツジ科の植物は、知床連山の亜高山帯に行けば、背の低いカーペット状の植物が数多く分布し

ているが、百平方メートル運動地内では数少ないので省略する。

シソ科

多くは草本で、茎葉に香気があり、茎は4稜形、葉は托葉がなく十字対生のことが多い。また花が筒状をなし、唇形になるのも特徴である。ゴマノハグサ科と花の形などがよく似ているが、果実が

1個ずつ種子を含んで分けられるところで区別できる。萼の形や脈の数、子房の分裂の仕方、花の形や色、雄しべの数、果実の大きさで属や種が決定できる。

アカネ科

道内に生育するアカネ科植物のほとんどは葉が

輪生する草本である。ヤエムグラ属(*Galium*)

に属する種がもっとも多く、これによく似た属にアカネ属(*Rubia*)とクormaバソウ属(*Asperula*)がある。これら3属は花冠が輻状か筒状か、花が4数性か5数性かで区別できる。さらに茎葉に逆

向きの刺(逆刺)があるかどうか、乾いたときに黒変するかどうか、また輪生する葉の数などで同定できる。

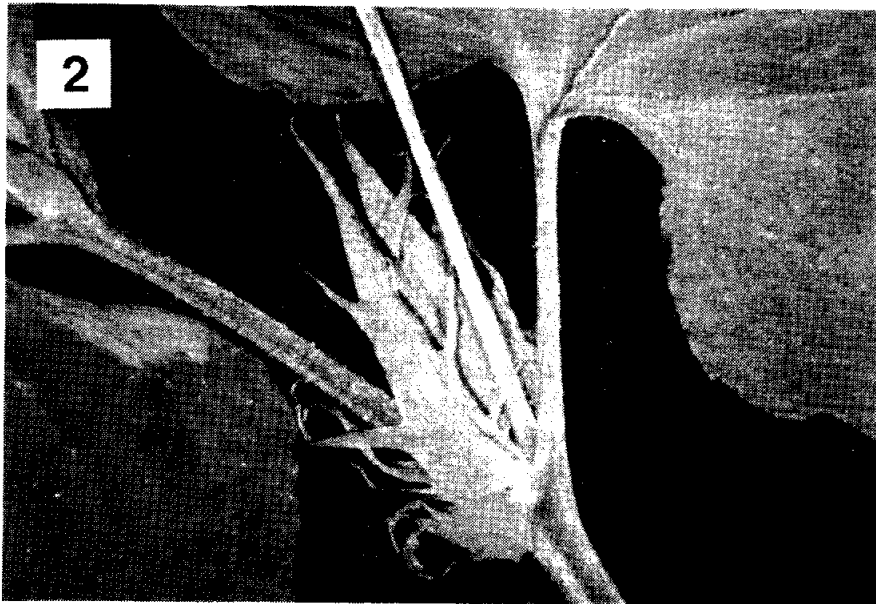
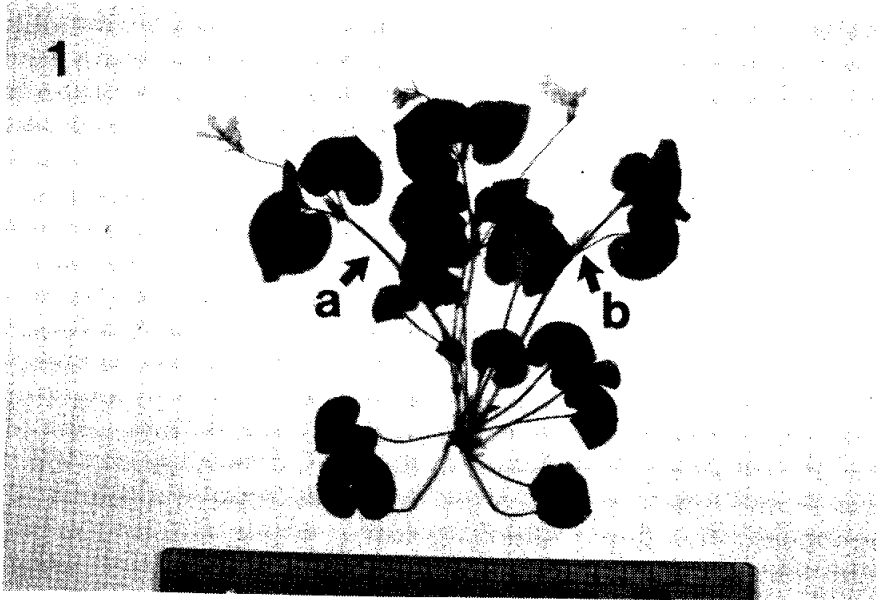


写真-11 (1)オオタチツボスミレ。 a ; 地上茎、 b ; 托葉。 (2)托葉の拡大図。



写真-12 カワラボウフウの散形花序.

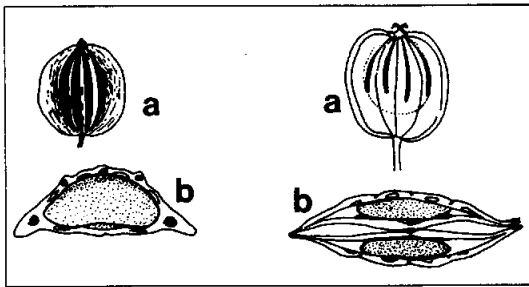


図-5 カワラボウフウ(左)とハナウド(右)の果実. a; 全形、b; 断面 [北村・村田(1961)より描く].

キク科

キク科の植物は双子葉類では最も進化したグループと考えられている。種を同定するときは、花の大きさや総苞の形、総苞片のならびかたや形など(図-6)に注目すると同定しやすい。ところがキク科の花といっても、じつは花に見える部分は数多くの小さな花が集めた花序で、頭状花序あるいは簡略化したただ頭花と呼ばれたりする。実際の花は舌状花と筒状花のどちらかで、舌状花を欠く種もある。萼の位置に冠毛があることが多い。これらの多くの花を取り囲んで総苞があり、その一つ一つを総苞片と呼ぶ。種の同定に際して

はこうした一般的特徴の他に、筒状花、舌状花、および果実(瘦果)の形や大きさ、地上部の付け根からでる根出葉の有無、茎からでる葉の形などが重要である。

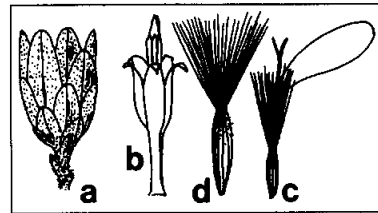


図-6 アキノキリンソウ. a; 総苞片、b; 筒状花、c; 舌状花、d; 瘦果 [北村・村田(1964)より描く].

3. 植物目録

この目録は1986年から1990年までの調査の結果を取りまとめたものである。目録中、番号のついている種が実際に生育が確認された種である。番

号のない種は、斉藤(1985)や鮫島・佐藤(1981)の知床半島での目録から、本調査地域内に分布していると考えられる種である。また*は帰化、植栽あるいは逸出植物である。

DIVISIO PTERIDOPHYTA

シダ植物門

- | | | | |
|----|--|----------|------------|
| | 1. Equisetaceae | トクサ科 | |
| 1 | <i>Equisetum arvense</i> Linn. | | スギナ |
| 2 | <i>E. hyemale</i> Linn. | | トクサ |
| | 2. Lycopodiaceae | ヒカゲノカズラ科 | |
| 3 | <i>Lycopodium serratum</i> var. <i>serratum</i> Makino | | ホソバトウゲシバ |
| 4 | <i>L. obscurum</i> Linn. | | マンネンスギ |
| | 3. Ophioglossaceae | ハナヤスリ科 | |
| 5 | <i>Botrychium robustum</i> Underw. | | エゾフユノハナワラビ |
| | 4. Osmundaceae | ゼンマイ科 | |
| 6 | <i>Osmunda japonica</i> Thumb. | | ゼンマイ |
| 7 | <i>O. asiatica</i> Ohwi | | ヤマドリゼンマイ |
| | 5. Pteridaceae | ワラビ科 | |
| 8 | <i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i> Underw. | | ワラビ |
| 9 | <i>Adiantum pedatum</i> Linn. | | クジャクシダ |
| 10 | <i>Coniogramme frarinea</i> var. <i>intermedia</i> C. Chr. | | イワガネゼンマイ |
| | 6. Aspidiaceae | オシダ科 | |
| 11 | <i>Matteuccia orientalis</i> Trev. | | イヌガンソク |
| 12 | <i>M. struthiopteris</i> Todaro | | クサソテツ |
| 13 | <i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i> Maxim. | | コウヤワラビ |
| 14 | <i>Polystichum tripterum</i> Presl | | ジュウモンジシダ |
| 15 | <i>P. braunii</i> Fee | | ホソイノデ |
| 16 | <i>Rumohra mutica</i> Ching | | シノブカグマ |
| 17 | <i>R. standishii</i> Ching | | リョウメンシダ |
| 18 | <i>R. migueliana</i> Ching | | ナライシダ |
| 19 | <i>Dryopteris austriaca</i> Woyнар, ex Schinz et Thellung | | シラネワラビ |
| 20 | <i>D. crassirhizoma</i> Nakai | | オシダ |
| 21 | <i>D. monticola</i> C. Chr. | | ミヤマベニシダ |
| 22 | <i>Lastrea totta</i> Ohwi | | ミゾシダ |
| 23 | <i>L. phegopteris</i> Bory | | ミヤマワラビ |
| 24 | <i>L. thelypteris</i> Bory | | ヒメシダ |
| 25 | <i>Athyrium pterorachis</i> H. Chr. | | オオメシダ |
| 26 | <i>A. pycnosorum</i> H. Chr. | | ミヤマシケシダ |
| 27 | <i>A. filix-femina</i> var. <i>longipes</i> Hara | | エゾメシダ |
| | 7. Blechnaceae | シシガシラ科 | |
| 28 | <i>Blechnum niponicum</i> Makino | | シシガシラ |
| | 8. Aspleniaceae | チャセンシダ科 | |
| 29 | <i>Asplenium scolopendrium</i> Linn. | | コタニワタリ |
| | 9. Polypodiaceae | ウラボシ科 | |
| | <i>Polypodium virginianum</i> Linn. | | エゾデンダ |
| 30 | <i>P. farrii</i> H. Chr. | | オシャグジデンダ |

DIVISIO SPERMATOPHYTA

種子植物門

GYMNOSPERMAE

裸子植物亜門

- | | | | |
|----|---------------------------------------|------|-----|
| | 10. Taxaceae | イチイ科 | |
| 31 | <i>Taxus cuspidata</i> Sieb. et Zucc. | | イチイ |

	11. Pinaceae	マツ科	
32	<i>Abies sachalinensis</i> Masters		トドマツ
33	<i>Picea jezoensis</i> Carr.		エゾマツ
34	<i>P. glehnii</i> Masters		アカエゾマツ
*35	<i>Larix kaempferi</i> Carr.		カラマツ

ANGIOSPERMAE

被子植物亜門

MONOCOTYLEDONEAE

単子葉植物綱

	12. Gramineae	イネ科	
36	<i>Sasa kurilensis</i> Makino et Shibata		チシマザサ
37	<i>S. paniculata</i> Makino		クマイザサ
	<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol.		スズメノテッポウ
*38	<i>Phleum pratense</i> Linn.		オオアワガエリ
	<i>Agrostis stolonifera</i> Linn.		ハイコヌカグサ
*39	<i>A. alba</i> Linn.		コヌカグサ
	<i>A. scabra</i> Willd.		エゾヌカボ
40	<i>A. clavata</i> Trin.		ヤマヌカボ
	<i>Beckmannia syzigachne</i> Fernald		ミノゴメ
41	<i>Calamagrostis epigeios</i> Roth.		ヤマアワ
42	<i>C. langsdorffii</i> Trin.		イワノガリヤス
	<i>Achnatherum extremiorientale</i> Keng		ハネガヤ
43	<i>Milium effusum</i> Linn.		イブキヌカボ
	<i>Phalaris arundinacea</i> Linn.		クサヨシ
*44	<i>Anthoxanthum odoratum</i> Linn.		ハルガヤ
45	<i>Hierochloa bungeana</i> Trin.		コウボウ
46	<i>Brachypodium sylvaticum</i> P. Beauv.		ヤマカモジグサ
*47	<i>Agropyron repens</i> P. Beauv.		シバムギ
	<i>Elymus sibiricus</i> Linn.		エゾムギ
	<i>Bromus pauciflorus</i> Hack.		キツネガヤ
*48	<i>B. tectorum</i> Linn.		ウマノチャヒキ
*49	<i>B. secalinus</i> Linn.		カラスノチャヒキ
*50	<i>Dactylis glomerata</i> Linn.		カモガヤ
51	<i>Festuca ovina</i> Linn.		ウシノケグサ
52	<i>F. rubra</i> Linn.		オオウシノケグサ
*53	<i>F. elatior</i> Linn.		ヒロハウシノケグサ
54	<i>Poa annua</i> Linn.		スズメノカタビラ
55	<i>P. macrocalyx</i> Trautv. et Mey.		カラフトイチゴツナギ
+	<i>P. trivialis</i> Linn.		オオスズメノカタビラ
	<i>P. viridula</i> Palib.		アオイチギツナギ
*56	<i>P. pratensis</i> Linn.		ナガハグサ
57	<i>Melica nutans</i> Linn.		コメガヤ
58	<i>Phragmites communis</i> Trin.		ヨシ
59	<i>Eragrostis multicaulis</i> Steud.		ニワホコリ
60	<i>Steria viridis</i> Beauv.		エノコログサ
61	<i>S. faberi</i> Herrm.		アキノエノコログサ
62	<i>S. glauca</i> Beauv.		キンエノコロ
63	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.		ヌカキビ
64	<i>Echinochloa crus-galli</i> Beauv.		イヌビエ

65	<i>Miscanthus sinensis</i> Anderss.		ススキ
	13. Cyperaceae	カヤツリグサ科	
66	<i>Scirpus wichurae</i> Bocklr.		アブラガヤ
67	<i>Carex pallida</i> C. A. Mey.		ウスイロスゲ
68	<i>C. stipata</i> Muhlenb.		オオカワズスゲ
69	<i>C. echinata</i> Murr.		キタノカワズスゲ
70	<i>C. shimidzensis</i> Franch.		アズナマルコ
71	<i>C. incisa</i> Boott		カワラスゲ
	<i>C. augustiniowiczii</i> var. <i>sharensis</i> Ohwi		シャリスゲ
72	<i>C. mertensii</i> var. <i>urostachys</i> Kuhenth.		キンチャクスゲ
73	<i>C. blepharicarpa</i> Franch.		ショウジョウスゲ
74	<i>C. caryophyllea</i> var. <i>microtrica</i> Kukenth.		チャシバスゲ
75	<i>C. sabyensis</i> Less.		カミカワスゲ
76	<i>C. breviculmis</i> R. Br.		アオスゲ
77	<i>C. sachalinensis</i> Fr. Schm.		ゴンゲンスゲ
	<i>C. conica</i> Boott		ヒメカンスゲ
78	<i>C. foliosissima</i> Fr. Schm.		オクノカンスゲ
79	<i>C. oahvensis</i> var. <i>robusta</i> Franch. et Savat.		ヒロバスゲ
80	<i>C. lanseolata</i> Boott		ヒカゲスゲ
81	<i>C. oxyandra</i> Kudo		シメスゲ
82	<i>C. polosa</i> Scop.		サッポロスゲ
83	<i>C. papulosa</i> Boott		エゾツリスゲ
	<i>C. parciflora</i> Boott		グレーンスゲ
84	<i>C. japonica</i> Thunb.		ヒゴクサ
	<i>C. aphanolepis</i> Franch. et Savat.		エナシヒゴクサ
85	<i>C. mollicula</i> Boott		ヒメシラスゲ
	14. Araceae	サトイモ科	
86	<i>Arisaema angustatum</i> var. <i>peninsulae</i> Nakai		コウライテンナンショウ
87	<i>Lysichitum camtschatiense</i> Schott		ミズバショウ
	15. Commelinaceae	ツユクサ科	
88	<i>Commelina communis</i> Linn.		ツユクサ
	16. Juncaceae	イグサ科	
89	<i>Luzula plumosa</i> var. <i>macrocarpa</i> Ohwi		ヌカボシソウ
90	<i>L. capitata</i> Miq., ap. Komar.		スズメノヤリ
91	<i>Juncus bufonius</i> Linn.		ヒメコウガイゼキショウ
92	<i>J. tenuis</i> Willd.		クサイ
93	<i>J. effusus</i> var. <i>decipiens</i> Buchen.		イ
	17. Liliaceae	ユリ科	
94	<i>Heloniopsis orientalis</i> C. Tanaka		ショウジョウバカマ
95	<i>Veratrum album</i> ssp. <i>oxysepalum</i> Hulten		バイケイソウ
96	<i>Hosta rectifolia</i> Nakai		タチギボウシ
97	<i>Hemerocallis yezoensis</i> Hara		エゾキスゲ
	<i>H. esculenta</i> Koidz.		ゼンテイカ
98	<i>Allium victorialis</i> var. <i>platyphyllum</i> Makino		ギョウジャニンニク
99	<i>Lilium cordatum</i> var. <i>glehnii</i> Woodcock		オオウバユリ
100	<i>L. maculatum</i> var. <i>dauricum</i> Ohwi		エゾスカシユリ
101	<i>L. medeoloides</i> A. Gray		クルマユリ
102	<i>Polygonatum humile</i> Fisch.		ヒメイズイ
103	<i>P. macranthum</i> Koidz.		オオアマドコロ
104	<i>Streptopus amplexifolius</i> var. <i>papillatus</i> Ohwi		オオバタケシマラン

105	<i>S. streptopoides</i> Frye et Rigg	ヒメタケシマラン
106	<i>Clintonia udensis</i> Trautv. et Mey.	ツバメオモト
107	<i>Smilacina japonica</i> A. Gray	ユキザサ
108	<i>Maianthemum dilatatum</i> Nels. et Macbr.	マイヅルソウ
109	<i>Disporum sessile</i> Don	ホウチャクソウ
110	<i>D. smilacinum</i> A. Gray	チゴユリ
111	<i>Convallaria keiskei</i> Miq.	スズラン
112	<i>Paris verticillata</i> M. v. Bieb.	クマバツクバネソウ
113	<i>P. tetraphylla</i> A. Gray	ツクバネソウ
114	<i>Trillium smallii</i> Maxim.	エンレイソウ
115	<i>T. kamtschaticum</i> Pall.	オオバナノエンレイソウ
116	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i> Hara et T. Koyama	シオデ
	18. Orchidaceae	ラン科
117	<i>Orchis aristata</i> Fisch.	ハクサンチドリ
118	<i>Gymnadenia camtschatica</i> Miyabe et Kudo	ノビネチドリ
119	<i>Plantanthera metabifolia</i> F. Maekawa	エゾチドリ
120	<i>Epipactis papillosa</i> Franch. et Savat.	エゾスズラン
121	<i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume	ササバギンラン
122	<i>Spiranthes sinensis</i> Ames	ネジバナ
	<i>Goodyera repens</i> R. Br.	ヒメミヤマウズラ
	<i>G. velutina</i> Maxim.	アケボノシュスラン
	<i>Myrmechis japonica</i> Rolfe	アリドオシラ
123	<i>Microstylis monophyllos</i> Lindl.	ホザキイチヨウラン
124	<i>Ephippianthus schmidtii</i> Reichb.	コイチヨウラン
	<i>Liparis makinoana</i> Schitr.	スズムシソウ
125	<i>Calanthe triplicata</i> Ames	サルメンエビネ
126	<i>Cremastra appendiculata</i> Makino	サイハイラン
127	<i>Creorchis patens</i> Lindl.	コケイラン

DICOTYLEDONEAE

双子葉植物綱

CHORIPETALAE

離弁花類

	19. Chloranthaceae	センリョウ科	
128	<i>Chloranthus japonicus</i> Sieb.		ヒトリシズカ
129	<i>C. serratus</i> Roem. et Schlt.		フタリシズカ
	20. Salicaceae	ヤナギ科	
130	<i>Populus sieboldii</i> Miq.		ヤマナラシ
131	<i>P. maximowiczii</i> A. Henry		ドロノキ
	<i>Toisusu urbaniana</i> Kimura		オオバヤナギ
132	<i>Salix hultenii</i> var. <i>angustifolia</i> Kimura		エゾノバッコヤナギ
	<i>S. vulpina</i> Anders.		キツネヤナギ
	<i>S. rorida</i> Lackschewitz		エゾヤナギ
133	<i>S. pet-susu</i> Kimura		エゾノキヌヤナギ
134	<i>S. sachalinensis</i> Fr. Schum.		オノエヤナギ
	21. Juglandaceae	クルミ科	
135	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.		オニグルミ
	22. Betulaceae	カバノキ科	
136	<i>Carpinus cordata</i> Blume		サワシバ
137	<i>Ostrya japonica</i> Sarg.		アサダ

138	<i>Betula maximowicziana</i> Regel		ウダイカンバ
139	<i>B. platyphylla</i> var. <i>japonica</i> Hara		シラカンバ
140	<i>B. ermanii</i> Cham.		ダカケンバ
141	<i>Alnus maximowiczii</i> Callier		ミヤマハンノキ
142	<i>A. hirsuta</i> Turcz.		ケヤマハンノキ
143	<i>A. japonica</i> Steud.		ハンノキ
	23. Fagaceae	ブナ科	
144	<i>Quercus mongolica</i> var. <i>grosseserrata</i> Rehd. et Wils.		ミズナラ
145	<i>Q. dentata</i> Thunb.		カシワ
	24. Ulmaceae	ニレ科	
146	<i>Ulmus davidiana</i> var. <i>jaopnica</i> Nakai		ハルニレ
147	<i>U. laciniata</i> Mayr		オヒョウ
	25. Moraceae	クワ科	
148	<i>Morus bombycis</i> Koidz.		ヤマグワ
	26. Urticaceae	イラクサ科	
149	<i>Urtica platyphylla</i> Weddell		エゾイラクサ
150	<i>Laportea bulbifera</i> Weddell		ムカゴイラクサ
151	<i>Boehmeria tricuspis</i> Makino		アカソ
	27. Loranthaceae	ヤドリギ科	
152	<i>Viscum album</i> var. <i>coloratum</i> Ohwi		ヤドリギ
	28. Aristolochinaceae	ウマノスズクサ科	
153	<i>Asarum heterotropoides</i> Fr. Schum.		オクエゾサイシン
	29. Polygonaceae	タデ科	
+154	<i>Rumex Acetosella</i> Linn.		ヒメスイバ
155	<i>R. japonicus</i> Houtt.		ギシギシ
+	<i>R. crispus</i> Linn.		ナガバギシギシ
+156	<i>R. obtusifolius</i> Linn.		エゾノギシギシ
157	<i>Polygonum aviculata</i> Linn.		ミチヤナギ
+	<i>P. arenastrum</i> Boreau		ハイミチヤナギ
158	<i>P. thunbergii</i> Sieb. et Zucc.		ミゾソバ
159	<i>P. sieboldii</i> Meisn.		アキノウナギツカミ
	<i>P. nepalense</i> Meisn.		タニソバ
160	<i>P. lapathifolium</i> Linn.		オオイヌタデ
	<i>P. scabrum</i> Moench		サナエタデ
	<i>P. posumbu</i> var. <i>laxiflorum</i> Ohwi		ハナタデ
161	<i>P. longisetum</i> De Bruyn		イヌタデ
162	<i>P. persicaria</i> Linn.		ハルタデ
163	<i>P. sachalinensis</i> Fr. Schum.		オオイタドリ
	30. Chenopodiaceae	アカザ科	
+164	<i>Chenopodium album</i> Linn.		シロザ
165	<i>C. album</i> var. <i>centrorubrum</i> Makino		アカザ
+	<i>C. ficifolium</i> Smith		コアカザ
	31. Amaranthaceae	ヒユ科	
+166	<i>Amaranthus lividus</i> Linn.		イヌヒユ
	32. Caryophyllaceae	ナデシコ科	
+167	<i>Spergula arvensis</i> Linn.		ノハラツメクサ
+	<i>S. arvensis</i> var. <i>sativa</i> Koch		オオツメクサ
+168	<i>Spergularia marina</i> Griseb.		ウシオツメクサ
169	<i>Moehringia leteriflora</i> Fenzl		オオヤマフスマ
	<i>Cerastium holosteoides</i> Fries		オオミミナグサ

170	<i>C. holesteoides</i> var. <i>angustifolium</i> Mizushima <i>C. fischerianum</i> Ser.		ミミナグサ オオバノミミナグサ
171	<i>Stellaria media</i> Villars.		コハコベ
172	<i>S. fenzlii</i> Regel		シラオイハコベ
173	<i>Cucubalus baccifer</i> var. <i>japonicus</i> Miq.		ナンバンハコベ
174	<i>Dianthus superbis</i> Linn.		エゾカワラナデシコ
+	<i>Silene alba</i> E. H. L. Krause		マツヨイセンノウ
+175	<i>S. noctiflora</i> Linn.		ツキミセンノウ
	33. <i>Cercidiphyllaceae</i>	カツラ科	
176	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et. Zucc.		カツラ
	34. <i>Ranunculaceae</i>	キンポウゲ科	
177	<i>Anemone debilis</i> Fisch.		ヒメイチゲ
178	<i>A. flaccida</i> Fr. Schm.		ニリンソウ
179	<i>Ranunculus repens</i> Linn.		ハイキンポウゲ
180	<i>R. silerifolius</i> Lev.		キツネノボタン
181	<i>Adonis ramosa</i> Franch. <i>Thalictrum foetidum</i> var. <i>brevipes</i> Hara		フクジュソウ チャボカラマツ
182	<i>T. minus</i> var. <i>hypoleucum</i> Miq. <i>T. minus</i> var. <i>stipellatum</i> Tamura <i>T. aquilegifolium</i> var. <i>intermedium</i> Nakai <i>T. sachalinensis</i> Lecoyer		アキカラマツ コカラマツ カラマツソウ エゾカラマツ
183	<i>Aconitum yesoense</i> Nakai		エゾトリカブト
184	<i>Actaea asiatica</i> Hara <i>A. erythrocarpa</i> Fischer		ルイヨウショウマ アカミノルイヨウショウマ
185	<i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.		サラシナショウマ
186	<i>Coptis trifolia</i> Salisb.		ミツバオウレン
187	<i>Caltha palustris</i> var. <i>membranacea</i> Turcz.		エゾノリュウキンカ
	35. <i>Berberidaceae</i>	メギ科	
188	<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim. <i>Diphylleia grayi</i> Fr. Schm.		ルイヨウボタン サンカヨウ
	36. <i>Magnoliaceae</i>	モクレン科	
189	<i>Magnolia obovata</i> Thunb.		ホオノキ
190	<i>M. kobus</i> var. <i>borealis</i> Sarg.		キタコブシ
191	<i>Schisandra chinensis</i> Baill.		チョウセンゴミシ
	37. <i>Papaveraceae</i>	ケシ科	
192	<i>Chelidonium majus</i> var. <i>asiaticum</i> Ohwi		クサノオウ
193	<i>Corydalis ambigua</i> Cham. et Schlecht.		エゾエンゴサク
	38. <i>Cruciferae</i>	アブラナ科	
194	<i>Cardamine impatiens</i> Linn. <i>C. flexuosa</i> With.		ジャンジン タネツケバナ
195	<i>C. scutata</i> Thunb.		ヤマタネツケバナ
196	<i>C. leucantha</i> O. E. Shulz		コンロンソウ
197	<i>Barbarea orthoceras</i> Ledeb.		ヤマガラシ
+198	<i>B. vulgaris</i> R. Br. <i>Rorippa islandica</i> Borbas		ハルザキヤマガラシ スカシタゴボウ
199	<i>Arabis serrata</i> var. <i>glauca</i> Ohwi		エゾノイワハタザオ
200	<i>A. glabra</i> Bernh.		ハタザオ
+201	<i>Armoracia rusticana</i> Gaert., Mey. et Scherb.		セイヨウワサビ
	39. <i>Crassulaceae</i>	ベンケイソウ科	
202	<i>Sedum verticillatum</i> Linn.		ミツバベンケイソウ

40. Saxifragaceae ユキノシタ科

- 203 *Astilbe thunbergii* var. *congesta* H. Boiss. トリアシショウマ
 204 *Saxifraga japonica* H. Boiss. フキユキノシタ
Chrysosplenium kamtschaticum Fischer チシマネコノメ
 205 *C. grayanum* Maxim. ネコノメソウ
 206 *C. flagalliferum* Fr. Schm. ツルネコノメソウ
 207 *Tiarella polyphylla* D. Don ズダヤクシュ
 208 *Shizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc. イワガラミ
 209 *Hydrangea petiolaris* Sieb. et Zucc. ツルアジサイ
 210 *H. paniculata* Sieb. ノリウツギ
 211 *H. macrophylla* var. *macrocarpa* Ohwi エゾアジサイ
Ribes sachalinense Nakai トガスグリ
R. latifolium Jancz. エゾスグリ
 212 *R. horridum* Rupr. クロミノハリスグリ
 *213 *R. grossularia* Linn. マルスグリ

41. Rosaceae バラ科

- Spiraea media* var. *sericea* Regel エゾシモツケ
S. butelifolia Pall. マルバシモツケ
 214 *S. salicifolia* Linn. ホザキシモツケ
 215 *Sorbaria sorbifolia* var. *stellipila* Maxim. ホザキナナカマド
 216 *Aruncus dioicus* var. *kamtschaticus* Hara ヤマブキショウマ
Fragaria yezoensis Hara エゾクサイチゴ
F. iinumae Makino ノウゴウイチゴ
Potentilla egedei var. *groenlandica* Polunin エゾツルキンバイ
P. centigrana Maxim. ヒメヘビイチゴ
 217 *P. fragarioides* var. *major* Maxim. キジムシロ
 218 *P. stolonifera* Lehm. ツルキジムシロ
 219 *P. freyniana* Bornm. ミツバツチグリ
 * *P. norvegica* Linn. エゾノミツモトソウ
P. nipponica Th. Wolf ヒロハノカワラサイコ
 220 *Geum japonicum* Thunb. ダイコンソウ
 221 *G. aleppicum* Jacq. オオダイコンソウ
 222 *Rubus crataegifolius* Bunge クマイチゴ
 223-a *R. idaeus* var. *aculeatissimus* C. A. Meyer ウラジロエゾイチゴ
 223-b *R. idaeus* var. *aculeatissimus* エゾイチゴ
 forma *concolor* Ohwi
 224 *R. phoenicolasius* Maxim. エビガライチゴ
 225 *R. parvifolius* Linn. ナワシロイチゴ
R. pedatus Smith コガネイチゴ
 226 *R. pseudo-japonica* Koidz. ヒメゴヨウイチゴ
 227 *Filipendula kamtschatica* Pall. オニシモツケ
F. yezoensis Hara エゾノシモツケソウ
 228 *Sanguisorba tenuifolia* Fisch. ナガボノシロワレモコウ
 229 *Agrimonia pilosa* var. *japonica* Nakai キンミズヒキ
 230 *Rosa rugosa* Thunb. ハマナス
 231 *R. acicularis* Lindl. オオタカネイバラ
 232 *Prunus sargentii* Rehd. エゾヤマザクラ
 233 *P. maximowiczii* Rupr. ミヤマザクラ
 234 *P. ssiiori* Fr. Schm. シウリザクラ
 235 *Sorbus commixta* Hedl. ナナカマド

236	<i>S. alnifolia</i> C. Koch		アズキナシ
	42. Leguminosae	マメ科	
237	<i>Maackia amurensis</i> var. <i>buergeri</i> C. K. Schn.		イヌエンジュ
238	<i>Thermopsis lupinoides</i> Link		センダイハギ
239	<i>Lespedeza bicolor</i> Turcy.		エゾヤマハギ
240	<i>Desmodium oxyphyllum</i> DC.		ヌスビトハギ
	<i>Vicia amoena</i> Fisch.		ツルフジバカマ
241	<i>V. japonica</i> A. Gray		ヒロハクサフジ
242	<i>V. cracca</i> Linn.		クサフジ
243	<i>V. unijuga</i> A. Br.		ナンテンハギ
244	<i>Latyrus japonica</i> Willd.		ハマエンドウ
+245	<i>Robinia pseudo-acacia</i> Linn.		ハリエンジュ
246	<i>Astragalus japonicus</i> H. Boiss.		エゾモメンツル
+247	<i>Trifolium pratense</i> Linn.		ムサラキツメクサ
248	<i>T. lupinaster</i> Linn.		シャジクソウ
+249	<i>T. repens</i> Linn.		シロツメクサ
	43. Geraniaceae	フウロソウ科	
250	<i>Geranium erianthum</i> DC.		チシマフウロ
	<i>G. yezoense</i> Franch. et Savat.		エゾフウロ
251	<i>G. sibiricum</i> var. <i>glabrius</i> Ohwi		イチゲフウロ
252	<i>G. thunbergii</i> Sieb. et Zucc.		ゲンノショウコ
	44. Linaceae	カタバミ科	
253	<i>Oxalis acetosella</i> Linn.		コミヤマカタバミ
254	<i>O. corniculata</i> Linn.		カタバミ
255	<i>O. stricta</i> Linn.		エゾタチカタバミ
	45. Rutaceae	ミカン科	
256	<i>Phellodendron amurense</i> var. <i>sachalinense</i> Fr. Schm.		ヒロハノキハダ
257	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>intermedia</i> forma <i>repens</i> Hara		ツルシキミ
	46. Simaroubaceae	ニガキ科	
258	<i>Picrasma quassioides</i> Benn.		ニガキ
	47. Euphorbiaceae	トウダイグサ科	
259	<i>Daphniphyllum macropodum</i> var. <i>humile</i> Hurusawa		エゾズリハ
+260	<i>Euphorbia cyparissias</i> Linn.		マツバトウダイ
	48. Empetraceae	ガンコウラン科	
261	<i>Empetrum nigrum</i> var. <i>japonicum</i> K. Koch		ガンコウラン
	49. Anacardiaceae	ウルシ科	
262	<i>Rhus ambigua</i> Lavalee, ex Dipple		ツタウルシ
263	<i>R. trichocarpa</i> Miq.		ヤマウルシ
	50. Aquifoliaceae	モチノキ科	
264	<i>Ilex sugeroki</i> var. <i>brrvipedunculata</i> S. Y. Hu		アカミノイヌツゲ
265	<i>I. crenata</i> var. <i>paludosa</i> Ohwi		ハイイヌツゲ
266	<i>I. rugosa</i> Fr. Schm.		ツルツゲ
	51. Celastraceae	ニシキギ科	
267	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.		ツルウメモドキ
268	<i>C. orbiculatus</i> var. <i>punctatus</i> Rehd.		オニツルウメモドキ
269-a	<i>Euonymus alatus</i> Sieb.		ニシキギ
269-b	<i>E. alatus</i> forma <i>ciliatodentatus</i> Hiyama		コマユミ
270	<i>E. sieboldiana</i> Blume		マユミ
271	<i>E. macropterus</i> Rupr.		ヒロハツリバナ
272	<i>E. oxyphyllus</i> Miq.		ツリバナ

273	<i>E. planipes</i> Koehne <i>E. tricarpus</i> Koidz.		オオツリバナ クロツリバナ
	52. Aceraceae	カエデ科	
274	<i>Acer japonicum</i> Thunb.		ハウチワカエデ
275	<i>A. palmatum</i> var. <i>matsumurae</i> Makino		ヤマモミジ
276-a	<i>A. mono</i> Maxim.		エゾイタヤ
276-b	<i>A. mono</i> var. <i>mayrii</i> Maxim.		ベニイタヤ
277	<i>A. ukurunduense</i> Traurv. et Mey.		オガラバナ
278	<i>A. tschonokii</i> Maxim.		ミネカエデ
	53. Balsaminaceae	ツリフネソウ科	
279	<i>Impatiens noli-tangere</i> Linn.		キツリフネ
280	<i>I. textori</i> Miq.		ツリフネソウ
	54. Vitaceae	ブドウ科	
281	<i>Vitis coignetiae</i> Pulliat		ヤマブドウ
282	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> Trautv.		ノブドウ
	55. Tiliaceae	シナノキ科	
283	<i>Tilia maximowicziana</i> Shiroshawa		オオバボダイジュ
284	<i>T. japonica</i> Simonkai		シナノキ
	56. Marvaceae	アオイ科	
+285	<i>Marva moschata</i> Linn.		ジャコウアオイ
	57. Actinidiaceae	マタタビ科	
286	<i>Actinidia arguta</i> Planch., ex Miq.		サルナシ
287	<i>A. polygama</i> Maxim.		マタタビ
288	<i>A. kolomikta</i> Maxim.		ミヤママタタビ
	58. Guttiferae	オトギリソウ科	
	<i>Hypericum ascyron</i> Linn.		トモエソウ
289	<i>H. yezoense</i> Maxim.		エゾオトギリ
290	<i>H. eratum</i> Thunb.		オトギリソウ
	59. Violaceae	スマレ科	
	<i>Viola mandshurica</i> W. Becker		スマレ
291	<i>V. sachalinensis</i> H. Bioss.		アイヌタチツボスマレ
292	<i>V. kusanoana</i> Makino		オオタチツボスマレ
293	<i>V. grypoceras</i> A. Gray		タチツボスマレ
294	<i>V. verecunda</i> A. Gray		ツボスマレ
	60. Thymelaeaceae	ジンチョウゲ科	
295	<i>Daphne kamtshatica</i> var. <i>jezoensis</i> Ohwi		ナニワズ
	61. Lythraceae	ミソハギ科	
296	<i>Lythrum salicaris</i> Linn.		エゾミソハギ
	62. Onagraceae	アカバナ科	
297	<i>Circaea alpina</i> Linn.		ミヤマタニタデ
298	<i>Epilobium angustifolium</i> Linn.		ヤナギラン
299	<i>E. montanum</i> Linn.		エゾアカバナ
300	<i>E. cephalostigma</i> Hausskn.		イワアカバナ
+301	<i>Oenothera biennis</i> Linn.		メマツヨイグサ
	63. Araliaceae	ウコギ科	
302	<i>Aralia elata</i> Seemann		タラノキ
303	<i>A. cordata</i> Thunb.		ウド
304	<i>Acanthopanax sciadophylloides</i> Franch. et Sav.		コシアブラ
305	<i>Kalopanax pictus</i> Nakai		ハリギリ

64. Umbelliferae		セリ科	
306	<i>Hydrocothle ramiflora</i> Maxim.		オオチドメ
307	<i>Sanicula chinensis</i> Bunge		ウマノミツバ
308	<i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.		ミツバ
309	<i>Torilis japonica</i> DC.		ヤブジラミ
310	<i>Osmorhiza aristata</i> Makino et Yabe		ヤブニンジン
311	<i>Bupleurum longiradiatum</i> Turcz.		ホタルサイコ
312	<i>Anthriscus sylvestris</i> Hoffm.		シャク
313	<i>Spuriopimpinella calycina</i> Kitagawa		カノツメソウ
	<i>Oenanthe javanica</i> DC.		セリ
314	<i>Aegopodium alpestre</i> Ledeb.		エゾボウフウ
315	<i>Chamaele decumbens</i> Makino		セントウソウ
	<i>Cicuta virosa</i> Linn.		ドクゼリ
316	<i>Pleurospermum camtschaticum</i> Hoffm.		オオカサモチ
317	<i>Ligisticum hultenii</i> Fernald		マルバトウキ
318	<i>Coelopeurum lucidum</i> var. <i>gmelinii</i> Hara		エゾノシシウド
319	<i>Conioselinum filicinum</i> Hara		ミヤマセンキュウ
320	<i>Angelica genuflexa</i> Nutt.		オオバセンキュウ
321	<i>A. ursiana</i> Maxim.		エゾニュウ
322	<i>A. anomala</i> Lallemand		エゾノヨロイゲサ
323	<i>Peucedanum terebinthaceum</i> Fisch. et Turcz.		カワラボウフウ
324	<i>Heracleum dulce</i> Fisch.		オオハナウド
325	<i>Daucus carota</i> Linn.		ノラニンジン

65. Cornaceae		ミズキ科	
326	<i>Cornus controversa</i> Hemsley		ミズキ

GAMOPETALAE 合弁花類

66. Pyrolaceae		イチヤクソウ科	
327	<i>Pyrola renifolia</i> Maxim.		ジンヨウイチヤクソウ
328	<i>P. alpina</i> H. Andr.		コバノイチヤクソウ
329	<i>P. secunda</i> Linn.		コイチヤクソウ
330	<i>Chimaphila japonica</i> Miq.		ウメガサソウ
	<i>Monotropastrum globosum</i> H. Andr. ex Hara		ギンリョウソウ
67. Ericaceae		ツツジ科	
331	<i>Menziesia pentandra</i> Maxim.		コヨウラクツツジ
332	<i>Rhododendron albrechtii</i> Maxim.		ムラサキヤシオ
333	<i>Leucothoe grayana</i> var. <i>oblongifolia</i> Ohwi		ハナヒリノキ
334	<i>Vaccinium smallii</i> A. Gray		オオバスノキ
335	<i>V. japonicum</i> Miq.		アクシバ
68. Primulaceae		サクラソウ科	
336	<i>Lysimachia thyrsiflora</i> Linn.		ヤナギトラノオ
337	<i>L. vulgaris</i> var. <i>davurica</i> R. Knuth		クサレダマ
69. Oleaceae		モクセイ科	
338	<i>Ligustrum tschonoskii</i> var. <i>glabrescens</i> Koidz.		エゾイボタ
339	<i>Syringa reticulata</i> Hara		ハシドイ
340	<i>Fraxinus mandshurica</i> var. <i>japonica</i> Maxim.		ヤチダモ
341	<i>F. lanuginosa</i> Koidz.		アオダモ
70. Gentianaceae		リンドウ科	
342	<i>Halenia corniculata</i> Cornaz		ハナイカリ

343	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawcett		フデリンドウ
344	<i>G. triflora</i> var. <i>japonica</i> Hara		エゾリンドウ
345	<i>Tripterosperum japonicum</i> Maxim.		ツルリンドウ
	71. Asclepiadaceae	ガガイモ科	
346	<i>Cynanchum caudatum</i> Maxim.		イケマ
347	<i>Metaplexis japonica</i> Makino		ガガイモ
	72. Boraginaceae	ムラサキ科	
348	<i>Myosotis sylvatica</i> Hoffm.		エゾムラサキ
	73. Labiatae	シソ科	
349	<i>Ajuga yesoensis</i> Maxim.		ニシキゴロモ
350	<i>Scutellaria dependens</i> Maxim.		ヒメナミキ
351-a	<i>S. pekinensis</i> var. <i>ussuriensis</i> Hand. -Mazz.		エゾタツナミソウ
351-b	<i>S. pekinensis</i> var. <i>transitra</i> Hara		ヤマタツナミソウ
352	<i>Scutellaria strigillosa</i> Hemsl.		ナミキソウ
353	<i>Agastache rugosa</i> O. Kuntze		カワミドリ
354	<i>Nepeta subsessilis</i> var. <i>yesoensis</i> Franch. et Savat.		エゾミソガワソウ
	<i>Dracocephalum argunense</i> var. <i>japonicum</i> Kudo		ムシャリンドウ
355	<i>Prunella vulgaris</i> var. <i>lilacina</i> Nakai		ウツボグサ
	<i>Geleopsis bifida</i> Boenn.		チシマオドリコソウ
	<i>Stachys japonica</i> var. <i>intermedia</i> Ohwi		エゾイヌゴマ
356	<i>Lamium barbatum</i> Sieb. et Zucc.		オドリコソウ
357	<i>Lycopus uniflorus</i> var. <i>parviflorus</i> Kitagawa		エゾシロネ
358	<i>L. maackianus</i> Nakino		ヒメシロネ
	<i>Clinopodium chinense</i> var. <i>parviflorum</i> Hara		クルマバナ
359	<i>C. gracile</i> var. <i>sachalinense</i> Ohwi		ミヤマトウバナ
	<i>Mentha arvensis</i> var. <i>piperascens</i> Malinvaud		ハッカ
360	<i>Elsholtzia ciliata</i> Hylander		ナギナタコウジュ
	<i>Plectranthus inflexus</i> Vahl ex Benth.		ヤマハッカ
	74. Solanaceae	ナス科	
	<i>Solanum nigrum</i> Linn.		イヌホオズキ
361	<i>S. megacarpum</i> Koidz.		オオマルバノホロシ
362	<i>S. japonense</i> Nakai		ヤマホロシ
	75. Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科	
363	<i>Linaria vulgaris</i> Miq.		ウンラン
364	<i>Mimulus sessilifolius</i> Maxim.		オオバノミゾホオズキ
*365	<i>Veronica persica</i> Poir.		オオイヌノフグリ
366	<i>Pedicularis yezoensis</i> Maxim.		エゾシオガマ
367	<i>P. resupinata</i> Linn.		シオガマギク
	<i>P. schistostegia</i> Vved.		ネムロシオガマ
*368	<i>Verbascum thapsus</i> Linn.		ビロウドモウズイカ
	76. Phrymaceae	ハエドクソウ科	
369	<i>Phryma leptostachya</i> var. <i>asiatica</i> Hara		ハエドクソウ
	77. Plantaginaceae	オオバコ科	
370	<i>Plantago asiatica</i> Linn.		オオバコ
371	<i>P. camtschatica</i> Cham.		エゾオオバコ
*372	<i>P. lanceolata</i> Linn.		ヘラオオバコ
	78. Rubiaceae	アカネ科	
	<i>Rubia chinensis</i> var. <i>glabrescens</i> Kitagawa		アカネムグラ
373	<i>Galium verum</i> var. <i>trachycarpum</i> DC.		エゾカワラマツバ

374	<i>G. trifloriforme</i> Komar. <i>G. spurium</i> var. <i>echinospermon</i> Hayek <i>G. trifidum</i> var. <i>brevipedunculatum</i> Regel		オククルマムグラ ヤエムグラ ホソバノヨツバムグラ
375	<i>G. trachyspermum</i> A. Gray		ヨツバムグラ
376-a	<i>G. kamtschaticum</i> Steller, ex Roem. et Schult.		エゾノヨツバムグラ
376-b	<i>G. kamtschaticum</i> var. <i>acutifolium</i> Hara		オオバノヨツバムグラ
377	<i>Asperula odorata</i> Linn.		クルマバソウ
	79. Caprifoliaceae	スイカズラ科	
378	<i>Sambucus sieboldiana</i> var. <i>miquelii</i> Hara		エゾニワトコ
379	<i>Viburnum sargentii</i> Koehne		カンボク
380	<i>V. furcatum</i> Blume		オオカメノキ
381	<i>V. wrightii</i> Miq. <i>Lonicera caerulea</i> var. <i>amphyllocalyx</i> Nakai <i>L. alpigena</i> var. <i>glehnii</i> Nakai		ミヤマガマズミ クロミノウグイスカグラ エゾヒョウタンボク
	80. Adoxaceae	レンブクソウ科	
382	<i>Adoxa moschatellina</i> Linn.		レンブクソウ
	81. Valerianaceae	オミナエシ科	
383	<i>Patrinia gibbosa</i> Maxim.		マルバキンレイカ
384	<i>P. sibirica</i> Juss.		オトコエシ
385	<i>P. scabiosaefolia</i> Fisch. <i>Valeriana fauriei</i> Briq.		オミナエシ カノコソウ
	82. Cucurbitaceae	ウリ科	
386	<i>Schizopepon bryoniaefolius</i> Maxim.		ミヤマニガウリ
387	<i>Gynostemma pentaphyllum</i> Makino		アマチャズル
	83. Campanulaceae	キキョウ科	
388	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i> Hara		ツリガネニンジン
389	<i>A. pereskiaefolia</i> G. Don		モイワシャジン
390	<i>Peracarpa carnosae</i> var. <i>circaeoides</i> Makino		タニギキョウ
391	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.		サワギキョウ
	84. Compositae	キク科	
392	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>angustior</i> Nakai		ヤマハハコ
393	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i> Kitam.		カセンソウ
394	<i>Carpesium triste</i> Maxim.		ミヤマヤブタバコ
395-a	<i>Eupatorium chinenses</i> var. <i>sachalinense</i> Kitam.		ヒヨドリバナ
395-b	<i>E. chinensis</i> var. <i>simplicifolium</i> Kitam.		ヨツバヒヨドリ
396	<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>leiocarpa</i> Miq.		コガネギク
*397	<i>S. gigantea</i> var. <i>leiophylla</i> Fern.		オオアワダチソウ
*398	<i>Erigeron annuus</i> Pers.		ヒメジョオン
*399	<i>E. canadensis</i> Linn.		ヒメムカシヨモギ
401	<i>Aster glehnii</i> Fr. Schm.		エゾゴマナ
402	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>giganteus</i> Hort, et Nichols		アキタブキ
403	<i>Senecio nemorensis</i> Linn.		キオン
404	<i>S. cannabifolius</i> Less.		ハンゴンソウ
405	<i>Cacalia auriculata</i> var. <i>kamtschatica</i> Matsum.		ミミコウモリ
406	<i>C. hastata</i> var. <i>orientalis</i> Ohwi		ヨブスマソウ
407	<i>Achillea ptarmica</i> var. <i>macrocephala</i> Ohwi		エゾノコギリソウ
*408	<i>A. millefolium</i> Linn.		セイヨウノコギリソウ
*409	<i>Chrysanthemum leucanthemum</i> Linn. <i>Artemisia japonica</i> Thunb. <i>A. keiskeana</i> Miq.		フランスギク オトコヨモギ イヌヨモギ

411	<i>A. laciniata</i> Willd.	キクヨモギ
	<i>A. arctica</i> Less.	サマニヨモギ
412	<i>A. gmelini</i> Weber ex Stechm.	イワヨモギ
413	<i>A. montana</i> Pampan.	オオヨモギ
414	<i>A. schmidtiana</i> Maxim.	アサギリソウ
415	<i>Adenocaulon himalaicum</i> Edgew.	ノブキ
416	<i>Bidens maximowicziana</i> Oettingen	エゾノタウコギ
417	<i>Cirsium kamtschaticum</i> Ledeb.	チシマアザミ
418	<i>C. pectinellum</i> A. Gray	エゾノサワアザミ
+419	<i>C. vulgare</i> Tenore	アメリカオニアザミ
420	<i>Breea setosa</i> Kitam.	エゾノキツネアザミ
421	<i>Saussurea riederi</i> var. <i>yezoensis</i> Maxim.	ナガバキタアザミ
422	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i> Ohwi	コウゾリナ
+423	<i>Taraxacum officinale</i> Weber	セイヨウタンポポ
424	<i>Hieracium umbellatum</i> var. <i>japonicum</i> Hara	ヤナギタンポポ
+425	<i>H. aurantiacum</i> Linn.	コウリントンポポ
	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elara</i> Kitam.	ヤマニガナ
426	<i>Sonchus brachyotus</i> DC.	ハチジョウナ
+427	<i>S. oleraceus</i> Linn.	ノゲシ
+	<i>S. asper</i> Hill	オニノゲシ
+428	<i>Arctium lappa</i>	ゴボウ
+429	<i>Hypochaeris radicata</i> Linn.	ブタナ
+430	<i>Rudbeckia hirta</i> Linn.	キヌガサギク
+431-a	<i>R. laciniata</i> Linn.	オオハンゴンソウ
+431-b	<i>R. laciniata</i> var. <i>hortensis</i>	ヤエザキハンゴンソウ

4. まとめ

以上のように、これまでの調査で幌別台地、岩尾別台地では合計84科292属431種が確認された。帰化、逸出植物は43種で、全体のほぼ一割を占め、そのなかではキク科が13種、イネ科が9種で多かった。今回の調査では、これまでの知床半島での高等植物目録を総括した鮫島・佐藤(1981)の報告や、斉藤(1985)の報告にもなく、初めて生育が確認された種は41種にのぼり、ジャコウアオイ、ノラニンジンなどの帰化、逸出植物が13種とその

ほぼ3分の1を占めていた。

植物名の同定には最低限、低倍率のルーペと植物図鑑が必要であるが、是非それらを携えて、野外で植物の名前を調べてみていただきたい。ルーペの代わりに実体顕微鏡があればなお都合がよい。今回の小論では必ずしもすべての植物群について同定のキーを述べているわけではないが、野外観察などの一助になれば幸いである。

参考文献

秋山茂雄、1955：極東産スゲ属植物。北海道大学：257 p. + 248 plates.
池田好郎・斉藤稔、1962：知床半島の植物（第一報）、帯広畜産大学知床半島学術調査団報告第一報：28-60
市川聡・吉中厚裕、1987：知床幌別台地開拓放棄地の植生。知床博物館研究報告 8：1-28
北村四郎・村田源・堀勝、1957：原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ、保育社：297 p.
北村四郎・村田源、1964：原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ、保育社：390 p.
北村四郎・村田源・小山鐵夫、1964：原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ、保育社：464 p.
北村四郎・村田源、1971a：原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ、保育社・・・ p.
北村四郎・村田源、1971b：原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ、保育社・・・ p.
牧野富太郎、1961：新日本植物図鑑、北隆館：16 16 p.

文部省、1956：学術用語集 植物学編、大日本図書：155 p.
長田武正、1972：日本帰化植物図鑑、北隆館：25 4 p.
長田武正、1976：原色日本帰化植物図鑑、保育社：425 p.
長田武正、1989：日本イネ科植物図譜、平凡社：759 p.
大井次三郎・中池敏之、1978：改訂増補新版 日本植物誌 シダ篇、至文堂：289 p.
大井次三郎・北川政夫、1983：新日本植物誌 顕花編、至文堂：1716 p.
鮫島惇一郎・佐藤謙、1981：知床半島現存植生図 概説、北海道：64 p.
館脇 操、1954：知床半島（北見側）の植生、北見営林局：81 p.

A list of vascular plants of Shiretoko 100 sq. meter
movement area, Hokkaido, Japan.

Yukio Ishikawa¹, Satoshi Ichikawa² and Atsuhiko Yoshinaka³

1. Koshunai - cho, Bibai, 079 - 01. Forestry and Landscape Architecture Dept., Hokkaido College, Senshu Univ.
2. Anbo, Yaku - cho, Kumage - gun, 891 - 43. Kirishima - Yaku National Park Office, Nature Conservation Bureau, Environmental Agency, Japan.
3. Akankohan, Akan - cho, Akan - gun, 085 - 04. Akan National Park Office, Nature Conservation Bureau, Environmental Agency, Japan.